

報道各位

**2015年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式
～2015年1月5日(月)午前10時30分 TOKYO FMホール～**

株式会社エフエム東京は、2015年1月5日(月)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。

◇代表取締役社長・千代勝美 あいさつ◇

本日はグループ各社をはじめ、JFN 各社の皆様、また広告会社や日頃お世話になっております皆様方にお越しいただきまして、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

今年の日本経済は、自民党の衆議院選挙圧勝を受け、安倍政権の長期化が予測される中、今後計画される成長戦略の第三の矢が実体経済にどのように効果をもたらすか期待される点ではありますが、円安株高の基調の中でも、一般消費は低迷したままであり、GDP も未だ低下を続けているなど多くの課題を抱えております。

また、豪雨や土砂災害、噴火など大規模な自然災害が増大し、ますます安心安全への備えが重要となってきております。

そのような中で迎えた 2015 年であります。

昨年の TOKYO FM グループを振り返りますと、連結子会社各社とも 3 期連続黒字決算を果たしました。そして、通期の全社黒字決算に向けて、士気高く邁進していただきますよう、心からお願い申し上げます。

当社では、編成制作局において、8 月、10 月の聴取率調査で、メインターゲットである M1F1 層で No.1 を奪回しました。また、東日本大震災以来継続して取り組んできた「LOVE and HOPE」がギャラクシー賞と日本放送文化大賞をダブル受賞するなど、長期に亘り継続して取り組んできた、「アース&ヒューマンコンシャス」の実践の徹底が実を結んできている、そんな実感をみなさんと共有できることは本当に嬉しいことです。今年も放送文化をリードするクリエイティブ・イノベーションの大きなうねりを起こしてくれることを期待したいと思っております。

営業局においても、ラジオ広告費の低下が続く中、上期においてタイム・スポットとも前年を上回る成果をあげ、増益に大きく貢献をしてくれましたが、通期での前年比増収増益はもとより、実行予算達成に向けて、営業局の新体制の魂と実行力に大いに期待したいと思っております。

そして我々が忘れてはならないのは、会社の組織が円滑に健全に運営されるために、総務・技術そして経理・財務など管理部門の皆さんの日々の業務の地道な支え、そして大きな貢献があることであります。

本当にみなさんの不断の努力に感謝いたします。

さて、今年、当社は開局 45 周年を迎えます。

1970 年に開局してから今日まで、FM ラジオというコミュニケーション・プラットフォームを通じ、日本の放送文化の歴史を創り出し、新しい放送時代に向けて数々のチャレンジをしてきました。

しかしながら、ラジオ総広告費をみると 1991 年の 2406 億円をピークに 2000 年の 2071 億円からは低落傾向になり、2013 年の 1243 億円とピーク時の半減近くに至っていることはすでにご承知の通りで、FM 放送の価値の再構築は急務であり、業界全体が取り組むべき課題ではありますが、次世代に向けて若いリスナーを開拓することは我社としても至上命題と言えます。

このような中、在京ラジオ局の中での営業的な市場シェアは、皆さんの頑張りにより、着実に目標値である 30% 達成に向けて力強く進んでおりますが、実体的には、この直近の 3 年間は、リーマンショック後の、そして東日本大震災後の、厳しい時代からの復活のための 3 年であったと思っております。

心の底から思いを込めてヒューマンコンシャスに徹し、リスナーの心を思いやるというかけがえのないものを学んだ大震災を経て、今日、超多メディア時代が 着実に進展し、市場構造が地殻変動を起こしている中で、戦略的ターゲットを明確化し、統合メディア戦略の下、SNS など多様なメディアとのインテグレーションにより、共感の連鎖を生み出すことで発信力を強めてきました。番組コンテンツもそれにより息づき、聴取率向上にも繋がってきた面があると言えます。

営業的にも、戦略業種を定め、提案型営業を深化させることで、継続的に業績を回復させてくれました。

グループ各社の皆さんも、厳しい経営環境の中、必死で知恵を絞り、新しい時代への転換を急ぎ、行動する中で経営基盤を整備され、黒字決算を継続されています。

そして、今年2015年は、回復から成長へと転換をしていかなければなりません。

2015年度からグループ全体で新しいステージへと進むべく、成長戦略を骨子とした指針、中期経営計画を間もなく発表します。

グループ各社の一人ひとりが一緒になり、全員が自らの仕事に対する意識と行動を改めて見直し、これまでの枠組みを超えて、将来のグランドデザインを描き、自由闊達な発想と行動で次世代の放送文化を創って行きたいという思いで、策定作業を鋭意行っているところです。

もちろん、前に立ちはだかる苦難や困難を乗り越えるためには、全員が真に心をひとつにして、連携・連帯しあって、組織的に成し遂げることが必要であります。

しかし、組織の一人ひとりの個人の能力を高めて行くことも、大切なテーマでありますので、その実現のためにも、人財育成を中期経営計画の最重要ポイントの一つとして徹底的に取り組みたいと考えています。

批判や評論をするだけでなく、グループとしてどうあるべきか、そのために何をなすべきかという本質的で、建設的な議論と試行錯誤を続けていけば、必ずや一寸先に光が見えてくるのだと確信します。

列古破今(れっこはこん)、古(いにしえ)を裂き、今を破る、という禅語があります。

古を裂く、これは古い伝統を打破し、それを乗り越えるということです。今を破る、これは伝統とか古いものはダメで新しいものならいいということではありません。今に執着し、新しさにとらわれてもいけない、その今をも乗り越えていかねばならない、ということです。

要するに、過去とか現在とか、そういう時間が問題なのではなく、過去も現在も 知り尽くした上で、いかに常に本質を追求し続けていくかということで、さらに一步を進めることが肝要だということです。

開局45周年という節目の年に、長年のチャレンジであった V-Low マルチメディア放送の本放送のスタートを迎えようとしています。この V-Low マルチメディアも、新しいからやるわけではありません。新しい放送制度と技術革新を活用して、安心安全の社会インフラとして、新規事業創出や事業効率化のための産業インフラとして、人々に、社会に役立つという本質を徹底追求することによってのみ価値が生まれるのだと思います。このプロジェクトに携わるみなさんもそのような強い思いで、ソフト事業の認定と本放送の実現のために最後の追い込み作業をして欲しいと思います。

みなさんとの信頼関係を作れなければ、会社の組織力は生まれません。

先ほども申し上げたように、今年から、回復から成長へというキーワードの中で、経営としても、本質を追求することを怠らず、あるべき姿に向かって、やるべきことをやって行く、そして、誰もが心の自由さを持って発言し、大いに論じ、挑戦の精神や行動力を重んじる、そのような企業文化をみなさんと共に作り上げて行きたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

以上